

—受賞の知らせを受けた時、どのように感じられましたか？

突然のことでなかなか信じられませんでした。こうした基礎研究を評価しても大きな力となり、また特に若い世代の優秀な女性科学者の後押しになればと願っています。

—受賞理由となつた研究について教えてください

私の研究は腸内細菌と免疫系の相互作用についてです。病原体を捕える抗体の一種「免疫グロブリンA」(IgA)をつくらないマウスは腸内細菌の数が異常に増えてしまい、全身の免疫系が刺激され過剰な免疫反応を起すことを発見して2002年に米サイエンス誌に発表しました。それまでIgAは病原体から体を守るものとしか考えられていませんでした。しかし腸内細菌のバランスを保つにも重要な働きをしていて、免疫系の維持につながっていたのです。

—なぜ研究者を目指したのでしょうか？

子どものころ、ビタミンCを発見した生物学者の本をたまたま読み、科学的な好奇心や答える導き方に興味をひかれました。大学は医学部に進学。卒業後に医師をしながら大学で教えていましたが、いつも決まつた治療薬を処方し、授業で文献を読むばかりの毎日にもどかしさもありました。そんなとき学会で本庶佑先生の講演を聴き、そのテーマが偶然関心があつた微生物と免疫系の関係でした。

2019年度 第1回小林賞受賞者  
シドニア・ファガラサン氏  
理化学研究所 生命医科学研究センター 粘膜免疫研究  
チーム チームリーダー、免疫系による腸内細菌叢、神経  
系ならびに代謝系の総合的制御機構を研究テーマとする。

“腸内細菌と免疫の不思議  
尽きない好奇心で解き明かす”



## 【選考理由】

腸内細菌のバランス異常が免疫系を強く刺激するという新しい概念をもとに、代謝系だけでなく神経系の異常も引き起こす関連があることを明らかにした。免疫系が全身の統御にかかわる仕組を解明する新たなパラダイムの提唱。腸内細菌の役割は、がん、神経、免疫、代謝、老化など幅広い領域にわたり、新たな展開が期待される重要な分野である。この研究が生命科学分野に与えるインパクトは大きく、第1回小林賞に相応しいと判断した。



## 免疫系に未知の可能性を秘めた研究者を選出

# 研究者を支援する『小林賞』 生命科学の歴史に"新たな一步"を

公益財団法人小林財団は、国内の生命科学関連分野のさらなる発展を後押しすべく、2019年より「小林賞」を創設。

同分野で顕著な功績をおさめた研究者を選出、副賞として3000万円を贈呈する。

第1回受賞者の医学博士シドニア・ファガラサン氏、選考委員長を務める本庶佑氏に話を伺った。



これまでの研究者を後押しする  
研究者を後押しする

### 第2回「小林賞」受賞候補者推薦要領



#### 【推薦期間】

2020年7月21日(火)～9月18日(金)

#### 【対象者】

医学、薬学、農学、工学、理学などの生命科学に関する分野において独創的な研究を行い、顕著な成果を挙げ、さらにその後も当該研究分野の発展が期待される国内の研究者。

【副賞】3,000万円

<詳細は下記よりお問い合わせください>

公益財団法人 小林財団 東京事務所 TEL:03-5575-7525 E-mail:info@kisf.or.jp



公益財団法人 小林財団 理事長  
**小林一雅氏**

## 小林財団は留学生の奨学援助及び薬学関連の研究者を支援しております

当財団は、2002年3月の設立以来、アジア諸国からの留学生に対する奨学支援事業は、今年で19年目を迎えました。2012年に公益財団法人への移行認定を契機として研究助成事業を開始し、今年で9年目を迎えました。

お陰をもちまして、両事業も順調に進展し、多くの留学生並びに研究者の皆様方から好評をいただいております。

さて、当財団では、公益に資する支援事業の拡充を目指し、新たに顕彰

事業「小林賞」を創設いたしました。これは、広く生命科学の分野において、独創的な研究を行い、顕著な成果を挙げられ、さらに今後の展開が期待される研究者を顕彰するものです。

今回、この記念すべき「第1回小林賞」の受賞者に国立研究開発法人理化学研究所生命医科学研究センターの「シドニア・ファガラサン博士」が選出されました。なお、この選考に当たりましては、本庶佑選考委員長をはじめ各選考委員の皆様にご尽力を賜りましたこと、この紙面をお借りして御礼申し上げます。この「小林賞」が我が国の生命科学分野の進展に、些かわりとも貢献できる賞となりますことを切に願っております。当財団といたしましては、これまで築き上げてまいりました各事業を推進させていくとともに、公益に資する支援事業の更なる拡充に努めてまいります。

め各選考委員の皆様にご尽力を賜りましたこと、この紙面をお借りして御礼申し上げます。この「小林賞」が我が国の生命科学分野の進展に、些かわりとも貢献できる賞となりますことを切に願っております。当財団といたしましては、これまで築き上げてまいりました各事業を推進させていくとともに、公益に資する支援事業の更なる拡充に努めてまいります。



#### 【小林財団設立の趣旨】

アジア諸国の若者たちが平和で豊かな明日の地球を担う原動力となることを願い、我が国に留学し、厳しい経済状況の下で勉学に励む私費留学生に援助の手を差し伸べることを目的として、小林製薬株式会社代表取締役会長小林一雅、同副会長小林豊(2019年12月逝去)、両氏の出捐により、02年3月27日、財団法人小林国際奨学財団を設立(文部科学大臣認可)。

12年4月1日の公益財団法人への移行認定を契機として、国内の大学、研究機関において、薬学関連分野の研究者への支援事業として、研究助成事業を開始。

19年度からは、医学、薬学、農学、工学、理学などの生命科学に関する分野において、独創的な研究を行い、顕著な功績のあった国内で活躍する研究者に対する顕彰事業「小林賞」を創設。これにより、「奨学金支援事業」、「研究助成事業」に、「顕彰事業」が加わり、19年3月1日、設立当初からの法人名称である「小林国際奨学財団」を「小林財団」へと改称。

